

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376500357		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム輝楽苑 コーポA		
所在地	愛知県豊川市御津町御馬浜田148番地		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

輝楽苑独自の理念である「共に生きる仲間 旅立ちの日まで真心込めて 今日一日に想いをこめて」の通り、“今日が最後の日になるかもしれない。今日が一番いい状態である”という気持ちで介護を行っている。言葉使いにも注意し、職員同士注意し合える関係を作っている。地域とのつながりも大切に考え、保育園児との交流やご近所のボランティアさんの来苑、月1回の地域のサロンへの参加、おやつの買い出しなど行っている。また、地域の方に対し出前講座も開催し、施設としてできる限り地域に役立つよう考え取り組んでいる。
中庭が広がった事により、畑仕事が今までより充実し、他事業所の職員・利用者様にも来苑いただき交流を図りながら作物を育てている。
利用者様に対しては、出来る限り最期まで一緒にいたいという気持ちで介護させていただいており、医師との連携で24時間安心した介護が提供できる体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者に対して身体状況のちょっとした変化を見逃さず、早めの病院受診をすることで病気を予防している。また、職員同士が仲が良く、報・連・相(報告、連絡、相談)が取れており、1日が楽しく暮らせるように、一人ひとりの個性を上手に引き出してサポートをしている。排泄チェック表の有効活用では、タイムスケジュールの中に、排泄がわかり易く記号で記入されていたり、また、現場で起きた利用者の行動が書かれており、何時頃に利用者がどんな行動をしたかわかりやすく記録に残っている。研修も母体法人の研修を含め外部研修も充実しており、サービスの質の向上に反映している。家族からは、職員に要望など言い易いとの声があり信頼関係が構築されている。地域の人に認知症サポーター養成講座など開催して地域交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別に独自の理念を掲げている。“今日が最後の日になるかもしれない。今日が一番良い状態である。”という気持ちで、個々のペースに合わせて生活できるよう取り組んでいる。	職員会議の中やケアカンファレンスなどで、理念の振りかえりをしており周知している。職員は日常業務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度地域のサロンに参加している。近所の方が週に何回かボランティアで草取りや抹茶を点てに来て下さっている。	近隣の散歩や買い物など地域との交流は日常的に行っている。ホーム内で福祉出前講座として、悪質商法の具体例と対策について地域の高齢者の方を対象に実施した。園児の来訪、高校生など実習生受け入れを定期的に行っており、地域には根付いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の地域交流会では、社会福祉協議会の方、高齢者相談センターの方と共に地域に方に対し悪質商法に関する出前講座を企画し、施設見学をかね行う予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設のありのままを報告して見ていただき、意見をいただいている。防災訓練では講評をいただいた。	2ヶ月毎に開催している。出席者より「防犯パトロールとは何？」とか学生の実習についてやホームでの活動に関しての質問を受けており、ホームがよりよくなる施設のために話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村に出向いたりし、連携を図る努力をしている。認定調査時には立ち会い、状況報告等行っている。	市役所から、水害のマニュアルを作成してほしいと助言を貰っている。また、職員は現任研修など研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っているが、利用者様の部屋は昼夜問わず個人に任せている。危険が伴うと予想される方に対し、特に見守りを強化し拘束なしで快く過ごしていただけるよう努めている。	玄関は施錠しているが、職員が外出したい様子の利用者を察した時には、外に出ており、拘束はしていない。また、スピーチロックなどが何気なくでた場合は、ホーム長がその場で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等の虐待は見られない。言葉遣いにおいてもチェック表を定期的に記入する事で常に自己を振り返る事ができている。しかし、内出血が気付かないうちにできている為、力の入れ具合にも注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶと共に、いつでも見れる場所に資料は置いてある。実子がいない利用者の保証人には後見制度について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ十分説明し、納得を得た上で入居に結び付けている。施設としての出来る事や出来ない事もこの場で説明している。ターミナルケアに関しても契約の段階でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケート調査を行い、意見を聞いている。結果や今後について、全体会議にて話し合い改善するよう努めている。	家族は週1回程の来訪を含め全体的に来訪が多い。また、手紙や電話など、こまめに連絡を取り良好な関係を築いている。家族からの要望で、名前の違う衣類が入っている点は、職員間で話し合い改善している所である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様個人の問題や、フロアとして取り組みたい事をホーム長に相談し実践している。法人としても業務改善委員会を設け、より良く働けるよう取り組んでいる。	職員とホーム長は月1回の定期的な職員会議で利用者のことやホーム全体について話し合いを行っており、ホーム長はそれを上司に伝えて改善できるものは改善している。エアーマットなど福祉用具の購入がしてもらえるなど、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回個々の職員に対し、評価を行っている。個々に目標を掲げており、それに向けての達成度も確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に段階的に参加するようにしている。法人内の研修会にはパート職員も積極的に参加している。外部研修では復命書を回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際は、他施設の同業者と交流することができ、情報交換が行えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、希望や要望を聞き入れサービスに反映するようにしている。また、第一印象を大切にしながら接している。また、できる限り要望を聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に寄り添ったケア、ご家族様目線でのアドバイスを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学に来ていただき、本人・家族の方に環境の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を「する」「しない」ではなく、人と人との繋がりがりや関係を大切にしている。できる事は利用者様に行っていただけるよう声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に声をかけ、近況を報告しご家族の思いを聞き出すよう心がけている。何かを決める際には必ずご家族に相談し、意見を取り入れている。また、家族交流会を開催し、職員との交流にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会の際は、ご本人の過去を話していただいたりしている。「いつでもお越し下さい」と次回も来苑していただけるよう言葉をかけるようにしている。	利用者と外出する際に自宅付近の馴染みの場所や弘法さんに立ち寄ってきたり、家族と出かけるなど家族と共に関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況を観察、把握しトラブルになる前に対応するよう心がけている。しかし、すべて防げるわけではない為、職員も心に余裕を持って対応したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様・ご家族が困った事があれば相談にのっている。また、ご本人にも会いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひもときシートを使用し、利用者様個々の問題点から現在困っている事を導きプランを作成している。	日々の生活の中で話しやすい雰囲気や環境づくりに心がけて会話や表情を見て思いや希望を汲み取っている。家族の面会時や関係者からの情報交換で一人ひとりに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活をどのように過ごしてきたか生活歴や会話の中から把握し、得意としている事を見つけ出し、やる気に反映させている。また、過去と現在の違いを見つけながら、「今」一番の対応方法を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、毎日の記録に目を通し、日々の状態に合わせ支援している。できる事は継続、できそうな事は声かけし、どこまでできるか把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の思いをしっかり受け止め、その中でできることを最大限引き出すように努めている。ひもときシートを活用し、あらゆる面から現在の状態を見つめ直し作成している。	利用者、家族からの声を聞き計画を作成している。月一回の会議や関係者、ひもときシートを活用して現状に即した介護計画の見直しを行い、その都度家族に連絡して理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、また、他にこれから活かせるような事等の記録を残したり、口頭で伝えたりし介護計画の見直しに活かしている。身体面においてももしっかり観察を行い、変化を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調、状態の変化に応じて職員間で意見交換を行い、良いと思われる事は試すようにしている。本人の思いを中心に、出来る範囲内でサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で民生委員、高齢者相談センターの職員と情報を交換し、地域と関わっていけるよう助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より月2回の往診がある。その他、家族が希望する医療機関の利用も行っている。主治医との連携も密に行い、他科受診が必要な場合は紹介状を書いていただけ、Dr同士の連携も図られている。ご家族との話し合いも往診時に行っていただけ。	利用者のかかりつけ医や他科診療も職員が付き添い、些細な変化にも早めの受診を行い、適切な医療を受けている。歯科医の往診も可能な方向に向かっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に日頃の健康管理を健康管理表にて確認していただき、助言・指導いただいている。異常時には電話にて連絡を取り、医療面でのバックアップ体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院に細かな情報提供を行っている。家族の方との連絡や、病院関係者から情報を得て、現状や今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に合わせて、家族の方と医師を交えて話し合う機会を設けている。施設で出来る事・出来ない事を話し、理解を得ている。ご家族・利用者様の希望を尊重した対応を心掛けている。また、いつ何時何があっても良いように心身ともに準備している。	入居時に本人、家族と話し合い書面にて同意を得ている。重度化に伴って家族、医師と話し合い最善の支援に努めている。重度化の利用者にはエアーマットの使用も対応できるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にも慌てないよう、対応方法を書面化し、目の届くところに置いてある。夜間帯の連絡方法も確認できるようになっている。パートを含め、職員は法人内の救命講習に参加できる体制を整え、参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練行っている。9月の防災訓練では運営推進会議の中で実施し、意見をいただいた。防災無線がある事で地域の様子も分かるようになっている	春には夜間想定火災避難訓練の実施、秋には津波による避難訓練を利用者、地域の代表らと行い問題点や改善点等を確認して災害時に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は鍵がかけられるようになっており、個々の判断で施錠されている。言葉遣いチェック表・接遇、マナーチェック表で評価し気をつけている。個々の性格や関係に基づき、それぞれにあった対応をしている。	職員は利用者の立場に置き換えた接し方や言葉掛をするように心がけて対応している。ホーム長もその場で指導したり各チェック表を基に問題を共有して職員のレベルアップに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に会話し、心の中を読むよう心がけている。何か行う際は利用者様の意志を最優先し、無理強いはいないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室や居間等、利用者様の好むように生活していただき、できる限り個々のペースで過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならないよう配慮しながらも、お気に入りの服を着ていただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時間をかけても自力摂取していただけるよう心がけている。席にも注意し、気の合う入居者同士が話しながら摂取できるよう支援している。準備も無理な声かけは行わず、「何かする事はありますか」と言われたら行っていたい。	食事は法人からの配食となっているが、利用者の嗜好など考慮して献立を考えている。食事は職員と会話をしながら利用者のペースに合わせて食べている。週2回ほど利用者とホットケーキやしるこ等を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は一目でわかるように表にしてある。朝食をあまり食べられなかったら、できるだけ昼食は食べれるように声かけを行い、バランスを考えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて行える利用者様へは声かけを行い、介助が必要な利用者様は職員が行っている。口腔内の観察も行い、必要時にはハミングッドにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて支援している。トイレ誘導の声かけを時間を見て行っている。オムツ使用の利用者様に対しては、不快な思いをさせないよう気をつけている。	職員は利用者一人ひとりの排泄を細かくチェック表に記載している。それを下に声掛けをしている、トイレでの排泄をしており、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便通の良くなるものを提供している。(ブルーノ、ヨーグルト等)トイレ使用後はトイレ内を確認し、排便状況に漏れないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけは午前午後に限らず行い、タイミングを見計らって行っている。拒否された場合は時間を置き声かけを行っている。	入浴は概ね週3回は入浴している。希望に応じた時間帯で入浴しているが、拒む時は肩もみをしたり気分をよくしてもらい浴室に導くなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを尊重し、食事やおやつなどもその日の状態に合わせた対応をしている。居室にて休まっている場合は利用者様の希望に合わせて空調も利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時には日誌にてすべての職員が把握できるようにしている。服薬の際は、間違いがないようにその都度声に出し確認し、飲み込むまで見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や嗜好を頭に入れ会話するようにしている。コーヒーを提供したりして喜んでいただけるよう努めている。テレビのチャンネルも利用者様の好むような物にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や行事での外出機会を設けている。外に出る機会があればその日の体調に合わせ、個別の外出を行っている。	天気の良い日は中庭に出て野菜の世話や日光浴を楽しんでいる。外出はボランティアの人と水族館や近所の喫茶店に出かけたり、家族と馴染みの場所に出かける人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対する関心が薄れてしまい、現在現金を所持されている利用者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の状態に合わせ電話をかけ、ご家族との繋がりを大切にしている。毎月写真と手紙で一か月の様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は危険がないよう余分なものは置かず広い空間にし、転倒防止など安全対策に努めている。テレビの音量も小さ過ぎないよう配慮している。	居間はソファと畳スペースには、コタツが設置してある。利用者はテレビを見たりコタツに入り新聞を読んだり寛いでいる。中庭には洗濯物が干してあったり菜園があり、我が家に居るような居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は気の合う方同志同じテーブルに座るようになっている。ソファへは個人の自由で座っていただき、会話を楽しませている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりが落ち着く場所となるよう、自宅から用意された筆筒等を使用している。位置にも配慮している。	居室はどの部屋もすっきりとしているが一人ひとりの個性が出ている。写真、タンス、ベッドなど配置等が工夫され落ち着ける居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付いており、障害物をなくす事により安心、安全な生活空間を提供している。また、歩行に不安がある利用者様に対しては、シルバーカーを使用するよう促し、安全面に留意している。自立を支援すると共に必要時には見守りや付き添いを行っている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2376500357
事業所名	グループホーム輝楽苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	月1回は地域の御馬っこサロン（高齢者の憩いの場所）に利用者が参加している。地域の人がホームの草取りを週3～4回してくたり、抹茶を立ててもらえて、利用者の楽しみとなっている。昨年と同様に小学生、保育園児との交流、高校生の実習受け入れ、他に、認知症サポーター養成講座など開催している。キャラバンメイトとして地域に出向いて、認知サポーター養成に尽力している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	年6回奇数月に運営推進会議を開催している。主に、意見交換の場となっており、介護保険制度や認知症の症状について、避難訓練や避難方法など、出席者より活発に意見が出ており、それを職員間で話し合い運営に反映している。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市役所に利用者の認定更新の手続きに出向いた時にホームの状況など話している。また、職員は現任研修に参加してサービスの質の向上に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族には、利用者の日常の様子がわかる写真や手紙を書いて送付している。他に毎月事業所の行事報告を書いた「おきらく新聞」を発行している。職員は家族の来訪時や電話などで話す機会は多く、要望や意見は言い易い関係で良好である。要望の中で、駐車場が狭いとの声があり、今年度はホーム隣に駐車場ができています。家族交流会は年1回夏祭りの時にいき、家族とコミュニケーションを図っている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。